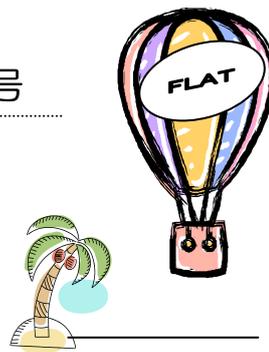


ふらっと.come!

平成24年 1月 5日 第23号

発行者 船橋福祉相談協議会 「ふらっと船橋」
〒273-0011 船橋市湊町2-1-5 MIIビル101R
TEL 047-495-6777 FAX 047-495-6776
HP <http://www1.ocn.ne.jp/~flatcome/>
Email flat-funabashi@key.ocn.ne.jp



「おめでとう」を創る。

船橋福祉相談協議会 会長 宮代 隆治

新しい年が訪れました。昨年未曾有の天災や人災を経験しました。岩手や宮城、そして福島等東日本を中心に広範な範囲で、地震そして続く大津波で1万6千人弱の尊い生命が奪われ、今も行方不明の方々が3千5百人弱と数えられています。

天災は自然とともに生存する私たちにとって避けて通れぬ、必然的に遭遇する現象です。火山の爆発や集中豪雨、干ばつやときには豪雪や竜巻等は、日々刻々世界中に起きていることです。

人類はそれらと折り合いをつけながら、共存を図って来ました。どんなに科学が進歩しても、自然現象そのものを根本的に制する術を、私たちは知りません。

自然現象への感慨は、宗教的な意味合いも含有されます。時に過酷であり、存在そのものが消滅の危機に瀕することもあります。逆に豊穡の実りをもたらすのも自然であり恐怖と感謝、畏敬の対象となるものです。私たちは、自然とともに在るのであり、その中で営みを続けて来ました。

人災は人為により起こる災害です。天災とは、全く異なります。原発事故は取り返しのつかない惨事を引き起こしました。大量の放射能が大気から、海水から広範囲にばら撒かれ、被災地はじめ各地で汚染の実態が報告されています。それは、子々孫々にわたり健康被害を及ぼし、また国際的にその責任を追及されるべきものとなりましょう。

科学の進歩は人類の福祉に貢献するのであるし、一歩間違えば破壊と禍をもたらします。原子力は、両刃の剣そのものです。

“安らかに眠って下さい 過ちは繰返しませんから”、広島原爆記念碑に刻まれた言葉です。原発も原爆も根っ子は同じです。

将来のエネルギーを何に求めるのか、それはこの国の姿を見据えながら、一人ひとりが自分で判断しなければなりません。判断の基準は、目先の利益や偏狭な

“しがらみ”を離れた、次代に責任の持てる自身の価値観でありたい。

心からの「おめでとう」はあなた任せで訪れるのではなく、創りだして行くものかもしれません。そんな時代に居るようです。

皆様にとって良き

一年でありますように !!



小学校の特別支援学級に学んで

船橋福祉相談協議会 副会長 高尾 英彦

我が家の自閉っ子、真康（まさやす）は現在地域の特別支援学級に通う中学1年生です。

真康の小学校（特別支援学級）生活を通じて親が学んだ事のひとつを、お話をさせていただきます。それは、地域の力を借りる事の大切さです。特に普通学級の子供たちとの関わりは、真康の成長に欠かせないものでした。

小学校時代の真康は人の模倣に興味を示していたという事もありますが、普通学級との交流を通じて身近なこと、運動、挨拶、マナー等、手本を示してくれるお友達に囲まれ、彼らを真似ることによって、学校生活に必要な動作を楽しく、ゆっくり、身につけていきました。更に学校以外の日常でも周囲への関心が高まり、広く“にんげん”に興味をもつ様になりました。学校では特別支援学級生のみならず、普通学級の上級生にも関心をもって近づきました。上級生たちはそれに応えて真康に関心をもち、やがて我が家に遊びに来て真康に絵本の読み聞かせをしたり、公園で遊んだり。

入学前には想像もしなかった交流を経験させて頂きました。こうして普通学級の児童たちが真康のような（障害のある）子がいて当たり前な社会を小さな体で実現している姿は、親である私たちを大変勇気づけました。買い物の練習など地域の商店の協力を得た自立訓練や、地域の行事への参加によって、障害のある側もそうでない側もお互いをよく知るということに、私たちは積極的になることができました。

法律も条例も自閉症という障害の理論も学んでいない児童たちですが、特別支援学級の存在によって、障害のある側とそうでない側がお互いに楽しく暮らす方法を身につけています。真康の育つ力をどこまでも信じることと同時に、地域が持っている“こどもを育てる力”を信じ、近づいてみる事の大切さを、日々学んだ6年間でした。

退職のごあいさつ

新田 千枝

謹んで新春のお慶びを申し上げます。昨年3月11日以来、何かとご不自由な日々を送られている方もいらっしゃるかと存じます。一日も早く生活が回復され、明るい年となりますよう御祈念いたします。

さて、私こと平成23年12月末日をもってふらっと船橋を円満退職することになりました。入職以来、公私にわたって賜りましたご厚情に対し心からお礼申し上げます。相談員として奔走した1年9カ月を振り返ると、短い期間ではありましたが私にとって大変貴重な経験となりました。「障害のある方の暮らしを支援する」という職務はやりがいのある仕事である一方で、その責任の重さに圧倒されてしまうこともありました。この度は、相談者の方へお別れをしなければならないことを大変心苦しく思いますが、お互いに成長した姿でいつかどこかでお会いできる日を楽しみにしております。

また、関係機関の皆様におかれましては無理難題を持ちこんだにも関わらず、熱心にあきらめずに支援をして下さったこと、深く感謝申し上げます。終わりにふらっと船橋職員の皆さま、未熟な私に対し福祉制度やソーシャルワークの実践、その他多くの知識と技術を伝授いただきありがとうございました。平成24年1月からは、新しい職場で医療相談・心理士業務に従事していく予定です。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

今年は障害者福祉における変革の年になりますが、中々複雑で現場においては悩ましい問題も数多く出ており皆様方の福祉事業におかれましても様々かと存じます。相談事業においては、基幹型の件や指定相談等の充実を新法ではかなり大きく謳われておりますので、その役割をもって地域生活への相談支援にあたることとなります。新しい年を迎え、当方においても今からその準備に取り掛からねばと思う次第です。 (清水)